

生き残りをかけ仲卸業としての新たな展開

当組合の組合員は、公設の甲府市卸売市場で、生産者から預かった野菜・魚などの競りを行う荷受業者から生鮮食料品などを買い小売商や飲食店などの小売業者に卸す「仲卸」の役割を担っています。近年では県外大手の卸や小売りの県内進出により、市場の取扱量も最盛期に比べ半分程度と大きく減少しました。また、平成25年4月には、卸売市場法の改正により中央卸売市場から地方卸売市場へと名称も変わり、規制緩和により公設市場への各種の規制が緩和され経済活動が以前より自由になりました。

こうした中、卸市場として「消費者感謝デー」「甲府さかなっぴ市（魚＋菜っ葉）」など、経済性を確保しながら市場を消費者に理解してもらう取り組みを繰り返しています。

一方、組合組織としては、後継者問題や組合員の減少に悩まされて

おり、その対策として、一口当たりの出資金額を減額し組合への新規加入を促進させるとともに、既存組合員同士の情報交換などにより組合事業の活性化に向けて懸命な努力を行っています。

また、組合員もOEMによる自社ブランド商品による売上高と収益力の確保、異業種との連携による新たな販売チャンネルの開拓、関連会社との資本提携による商品アイテムの充実と顧客サービスの向上など生き残りのため努力を重ねています。

市場は、今以上に厳しい時代が来ると思います。しかし、市場流通自体は一般消費者に生鮮品を安定して提供していくためには必要不可欠な物流機能であることは間違いなく、組合もその構成員としての役割を欠くことはできないと思います。今後、組合は、様々な市場情報を蓄積・分析し、組合員の抱える経営課題を解決できる機能を強化することで、組合員から信頼される組合づくりをしていきたいと考えています。

